

事項	避難上有効なバルコニーの取扱い	関係 条文等	法第35条 令第121条
035-01			

避難上有効なバルコニーの構造は、建築物の防火避難規定の解説（編集 日本建築行政会議）によるほか、次の基準に適合させること。

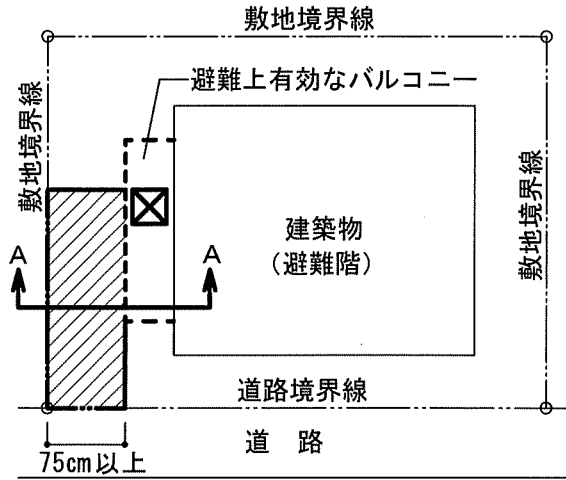


図1

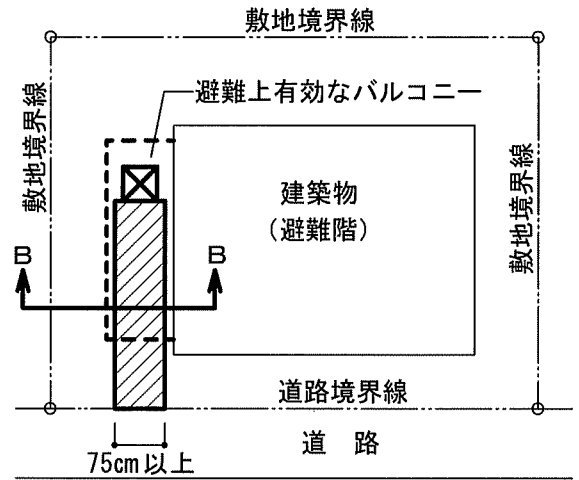
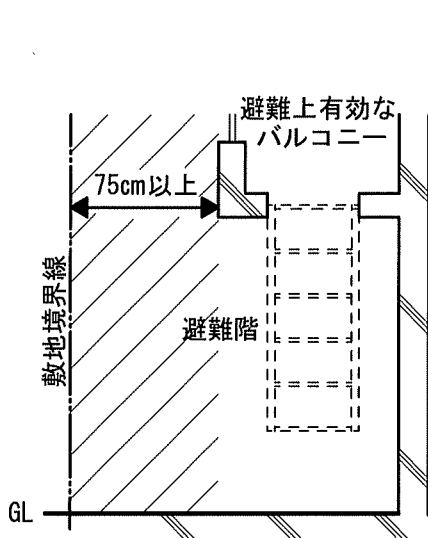


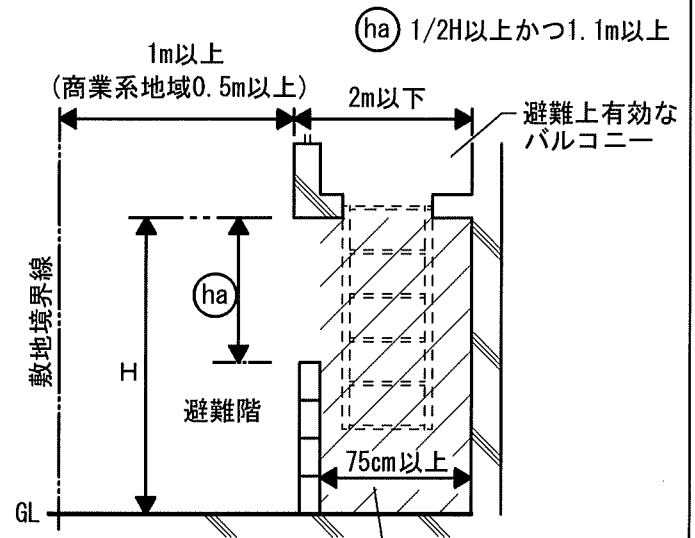
図2

☒ 避難上有効なバルコニーに設けられる
タラップその他避難上有効な設備
(以下、「避難器具」という。)

▨ 敷地内通路（有効幅員75cm以上）
※バルコニー隔壁部分も有効幅員75cm以上必要
※有効幅員は消防局へも別途確認要



A-A断面図



B-B断面図

開放式外部廊下
(吹きさらしの廊下)

[考え方・解説]

図1のとおり、避難器具から道路等へ通ずる敷地内の通路は、有効幅員75cm以上で屋外に設けること。なお、当該通路がピロティーやバルコニー下部を経由する場合で、開放式外部廊下（吹きさらしの廊下）の基準を満足するものは屋外と見なす。（図2参照）
(※1)

(※1) 兵庫県建築確認申請等の手引N○40を満足する廊下（通路）をいう。

[備考]
(関連告示等)

2020.10作成